

KPTふりかえり実践 研修のご紹介

株式会社永和システムマネジメント
サービスプロバイディング事業部

本研修の概要

お問い合わせ
03-5818-7400 / sales@esm.co.jp
永和システムマネジメント担当: 羽根田

□ 概要

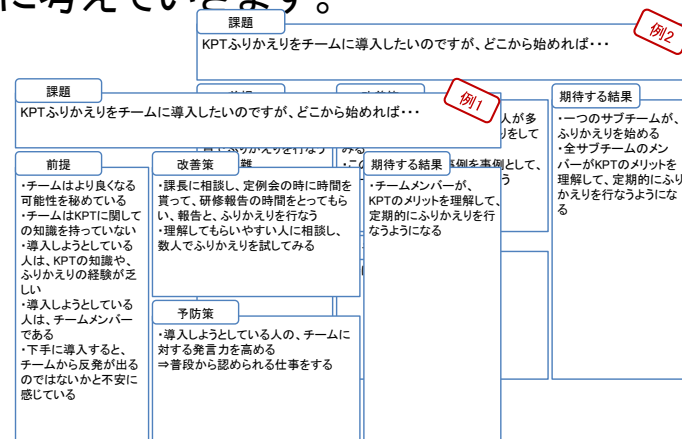
- PDCAサイクルを回して、改善を進めていきたいが、なかなか改善の成果が上がらなかつたり、そもそもPDCAサイクルすら回せていないという現場は意外と多いものです。このような現場では「ふりかえり」から始めることが有用です。
- しかし、現場にはそれぞれの特徴や事情があり、それらの制約から想定通りに事が運ばないものです。表面上は同じ問題に見えても、その原因は多岐にわたり、様々な解決策が考えられます。
- 本研修は、「現場でふりかえりを始めたい」「ふりかえりをやっているが成果が上がらない」という悩みを抱えている方を対象に、実践に役立つヒントの紹介するにとどまらず、ケーススタディ形式で様々な課題解決を、経験豊富な講師と一緒に考えていきます。

□ 対象者

- これからふりかえりを始めようとしている方
- よりよいふりかえりの方法を探している方

□ 人数

- 3~12名



研修のポイント

お問い合わせ
03-5818-7400 / sales@esm.co.jp
永和システムマネジメント担当:羽根田

事例をもとに、ふりかえりの課題と 解決策を学べる

・その背景に隠れている課題を学ぶことで、
より現実的な解決策を見出しやすい



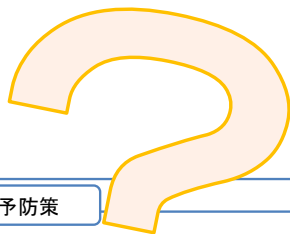
課題

とある部署(前提参照)で、KPTをするときに、どんなテーマにすればよいでしょうか？

前提

- ・6名のうち、4名が個別の仕事をしている
- ・それぞれに、お客様がついている
- ・ソフトウェア開発は2名で、4名は要件定義のみ
- ・他の2チームは同じ仕事なので、アイデアがでない
- ・KPTはまだやっていない
- ・週に1回、定例会(進捗報告)をしている
- ・相談の受け皿はない
- ・要件定義が6か月かかることもある
- ・専門家の意見をとりまとめるのが、要件定義担当の役割
- ・求められていることが違うので、アウトプットが異なる

改善策



予防策

期待する結果

- ・職場を楽しんでいると思っほしい
- ・グループの連帯感を高めてほしい
- ・モチベーションを高めたい

自身の課題の解決策が得られる

・自身の課題をテーマにケーススタディをすれば、様々な視点からの解決策が得られる

タイムテーブル(3時間)

お問い合わせ
03-5818-7400 / sales@esm.co.jp
永和システムマネジメント担当:羽根田

目安時間	内容
9:00～	■現場の課題 [グループディスカッション] ・それぞれの現場の、それぞれの課題について話し合います。
9:20～	■ふりかえりとKPTの基礎知識 [座学] ・ふりかえりの狙いと、KPTという思考フレームワークの特徴を学びます。 ・KPTを使ったふりかえり会の進行手順を学びます。 ・KPTふりかえりの事例を学びます。
10:30～	■現場の悩み [ケーススタディ] ・ふりかえりに関して頻発する問題や、参加者の悩みをテーマにケーススタディを行ないます。 ・テーマ例 [1] KPTふりかえりをチームに導入したいのですが、どこから始めれば・・・ [2] みんな他人事のようにふりかえりに参加するので、KPTがほとんど挙がらないのですが・・・ [3] みんなで決めたTryのはずなのに、だれも行動に移さないのですが・・・ [4] ふりかえりと言えはすぐにKPTとなり、ワンパターンでマンネリ気味なのですが・・・ [5] 前にふりかえり会をしていてやめてしまったチームに、再度ふりかえりを導入したいのですが・・・ ※途中で、10分程度の休憩をとります。
11:30～	■現場への持ち帰りの検討 [個人ワークショップ] ・ケーススタディで学んだことを、現場でどのように活用するかを検討します。 ・講師とのディスカッションにより不明点を解消します。(質疑応答)
11:50～	■まとめ
～12:00	終了